

【授業科目】病理学 Pathology

担当教員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
小菅 優子	1年次前期	必修	1	15	講義	あり	巻末掲載	可
授業概要 (内容と進め方) 及び課題に対する フィードバック方法	<p>授業概要／病理学は、疾患の原因（病因）とその成り立ち（発生機序）について学ぶ学問である。総論として細胞障害、組織修復、代謝障害、循環障害、炎症、腫瘍、免疫異常、遺伝子および染色体異常について講義するとともに、各論として循環器系、呼吸器系、消化器系、内分泌系、泌尿器系、生殖器系、造血器系、神経系、感覚器系、運動器系、皮膚系それぞれの系統における疾患の病理学的変化について講義する。さらに、病理学と関連する臨床栄養、病態薬理、認知症の検査などの臨床検査の基礎となる知識についても講義する。本科目では、疾患に関する病因および病態について、形態学的所見と機能異常との関連を理解できることが目標である。また、本科目の履修には、解剖組織学、生理学、免疫学、微生物学、生化学などの基礎的知識を基盤とし、学んだ内容は病理検査学、臨床病態学などの科目へ結びつけるが必要になる。</p> <p>課題に対するフィードバック方法／課題を提出した場合は、提出されたレポートにコメントを付けて返却する。</p>							
実務経験に関する 授業内容	<p>病理検査学の臨床経験を持つ教員が、臨床検査技師として必要な疾患の原因と成り立ちについて、経験を交えながら講義する。</p>							
授業の 位置づけ	<p>本学のディプロマ・ポリシー①「臨床検査の専門性と責務を自覚するとともに、地域に住むあらゆる健康レベルの人々に専門的知識と技術に基づき臨床検査を実践できる」の達成に寄与している。</p>							
到達目標 (履修者が到達 すべき目標)	<p>① 病因の種類が理解できる。 ② 組織傷害の種類、組織変化を理解できる。 ③ 代謝異常、循環障害について理解できる。 ④ 炎症について特徴と機序を理解できる。 ⑤ 腫瘍について理解できる。</p>							
時間外学習に必要な 学修内容および 学習上の助言	<p>第1～8回事前学修：指定の教科書を事前に読み、解らない用語について調べておくこと（各60分）。 第1～8回事後学修：各回での学びを復習することで確認し、解らなかったことは調べ教員に質問する（各60分）。 *その他に、講義で学んだことを振り返るための課題を課すことがある（各120分）。</p> <p>※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（2単位15回科目の場合：予習+復習4時間/1回）（1単位15回科目の場合：予習+復習1時間/1回）（1単位8回科目の場合：予習+復習4時間/1回）を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。</p>							
授業計画	<p>第1回 序論、細胞の異常 第2回 循環障害Ⅰ 第3回 循環障害Ⅱ 第4回 代謝異常 第5回 炎症 第6回 腫瘍Ⅰ 第7回 腫瘍Ⅱ 第8回 各論</p>						<p>全て 小菅</p>	
評価方法 評価基準	<p>成績は以下の評点配分により、総合的に判断する。 講義ごとのレポート（講義内小テスト）30%、定期試験70%</p>							
教科書	『なるほどなっとく！病理学plus』 南山堂			参考書等		なし		
学生への メッセージ	<p>本科目を理解するために、解剖組織学や生理学の基礎的な内容について十分復習しておくこと。 積極的に講義に取り組んでください。</p>							